

## FD 関連研修会 参加報告書

主 催	大学教育学会
企画名称・テーマ	大学教育学会 第33回大会 『「大学教育の質とは何か」－ふたたび大学のレゾナードールを問う－』
開催日＜会場＞	2011年6月4日（土）・5日（日）＜桜美林大学＞
参加者所属	教学部 教育開発課

### 参加報告

6月4日・5日に開催された大学教育学会に参加した。

1日目は、2つのシンポジウムと基調講演が行われ、大学教育の質保証や、大学の存在意義について活発な意見交換がおこなわれた。

シンポジウムⅡ「大学教育における質保証の実践的展開とその意味」では、昨今叫ばれている「質保証」を達成するための重要な要素として、下記の3つの発表がおこなわれた。

- ①「3つのポリシーの策定と一貫性構築によるカリキュラムの質保証」／佐藤浩章（愛媛大学）
  - ②「GPA制度本格導入と成績評価を考える」／筒井剛史（一橋大学）
  - ③「学生調査の開発とマルチレベルFDとの連動による質保証」／山田剛史（愛媛大学）
- 質疑応答では、一橋大学のGPA導入に質問が集中し、「GPA導入後の課題」や「GPAのそれ自身が学生のためとなっているのかどうか」「低GPA学生への対応」など実質的な議論がおこなわれた。

多くの方が質問や意見を出されたが、否定的な姿勢の方がおおく、GPAの導入実績は年々増加しているものの、導入後に大きな課題を抱えている大学が多い事が窺えた。

2日目は、18のラウンドテーブルと11の部会が用意されており、より実質的な事例に触れる事ができた。

私が今回参加したのは、本学の教授法開発室でも検討されている「授業コンサルテーション」をテーマとしたラウンドテーブルで、愛媛大、徳島大、横浜国立大、滋賀県立大の事例を聞く事ができた。

愛媛大学は、2004年からコンサルを実施しており、恐らく日本で一番の実績をもった大学である。特徴的なところは、教員の「良い部分を引き出しながら、弱い部分も指摘する」という手法をとっており、コンサルタントが受講生にヒアリングをおこない、その結果をクライアントに伝える流れとなる。基本、クライアントとコンサルタントは1対1で話しあう。

徳島大学は、愛媛大学とは違って、1人のクライアントに対して複数のコンサルタントが

担当する形をとっている。

徳島大学は、学生へのヒアリングが中心ではなく、コンサルタントによる授業参観を通してのコンサルティングをおこなっている。

横浜国立大学はまだ試行期間ではあるがコンサルテーションを実施している。手法は愛媛大学のものを使っており、昨年度は6件のコンサルテーションをおこなった。

コンサルテーション後に、その効果について受講生にアンケート調査をおこなったが、コンサルの成果は、教員本人のモチベーションにかなり依存している部分があり、コンサルタントから

半ば強引に依頼をした教員はほぼ変化が見られなかった。

滋賀県立大学は、一人のコンサルタントが担当者となり、数週間にわたり継続的に授業参観をおこない、交換ノートを使いながらインタラクティブな指導を行っている。

4つの事例はどれも興味深いものだったが、4人の発表から見てきたものは、「コンサルテーションは最も手間隙がかかるが、今までにない効果が期待できる」ことであった。

以上